
平行

モト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平行

【Nコード】

N6785S

【作者名】

モト

【あらすじ】

データ整理中に発見しました。

おそらく6年以上前の物か？

詳細不明、何故書いたのかも覚えていません。

小説というか詩の様な物ですね。

青い夜闇に白刃の波

寄せては返し寄せては返し、

痺れるような冷たさ、

その神経を突き刺すような鋭さに背筋が伸びる。

足に纏わりつく泡の感触は、

しかし次第に緩和して生温く、なんとも心地よい。

ぞろりと足の下の砂が削られた。

ズット、目線が下がる気がして、一步また足を進める。

潮風は焼けるような匂い…消して洗い流されることの無い源の匂い。

遠く遠く遙か遠くで、啼いている、きつと啼いている。

砂は絶えず削られて、だからまた一步、また一步、

歩を進めなければならぬ。

その重み、水の抵抗、だが心地良いと感じるのは何故だろう。

出来ることならばこのまま……。

だが戻らねばならない、戻らなければ……

それまで流動し愛撫するように撫でていた砂は、

カチリと肌を刺し、塩に焼かれた肌がチリチリと痛む。

だが、それでも戻らなければなるまいということ、

良く知っている、知っている。

結局、相容れることはないのだろうか？

平行線なのだ。世界の隔壁は

連理の理など、ありはしない。

全ては個に細分化されている。

そして全ては平行に。

けれども侵略したいのだ、

馴染む毒気の心地よさを知っているから。

「それ以上、行くと本当に沈むぞ」

ああ、解っている、解り過ぎている、

私は永遠にこの海の底には辿り着けないのだ！

もどかしい、苛立ち、身体が邪魔だ。

「聞こえているのか」

「ええ」

浜に上がる、ザラリと砂が肌に食い込む、

気持ちが悪い。

潮風が、通り過ぎた。

波は、寄せては返し、寄せては返し。

あなたと私、世界は平行線。

相容れない、きつと相容れない。

気付いていますか、

気付いていますか、

気付いていますか。

「これで」

そういつて手ぬぐいを差し出されたから、

なんと言ってよいものかしら。

砂が口や目や、ホロホロと指の間からこぼれて、

取り留めよりの無い胎動。

きつと、気付いているのでしょ
う。
哀しい、哀しい、
鳴く鳥は浜千鳥、銀の翼の浜千鳥。

「月が……」

「酒を持つてくるんだった」

「咽喉が焼けますよ」

寄せては返し寄せては返し、

絶える事の無い波、

むせ返るような波。

砂がこぼれた、

溢れてこぼれた。

そろそろと崩れて落ちた。

それでも、それでも、

この世界で私は、

生きなければ、ならない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6785s/>

平行

2011年10月5日19時54分発行